

## 「立春祭」成井理事長挨拶

「立春祭」、おめでとうございます。

瑞雲郷では梅の花が見頃を迎え、ほのかな春立つ香りに包まれています。

本日、私どもは、明主様と共にあるメシアの御名にあって、意義ある「立春」を心からお祝いさせていただきました。

先日、私は、「立春祭」を前にして、厳しい寒さの中、微かな春の訪れを感じとるかのようにはころび始めた梅の蕾を目に致しました。

そして、私自身も、たとえ寒風吹きすさぶような心の状態にある時も、自らの心の中心の一点には、大光明の眩い光が燦然と輝いていることに、いつも心を向けることが出来るものでありたいと強く思わせていただきました。

私どもは、「立春祭」に際して、明主様から、神様の無量無辺の愛と赦しと救いが、自らのうちにあることをお知らせいただいたことへの感謝をもって、この深き恵みがすべてのものに分け与えられますようお仕えさせていただきますとの思いを胸に、聖地を出発させていただきたいと存じます。

さて、新たな年を迎え、はや一ヶ月が過ぎました。

元旦には、教主様のご出座を仰ぎ、白澤代表をはじめとするいつのめ教区の皆さまとご一緒に、「新年祭・立教記念祭」を厳粛且つ盛大に執り行わせていただきましたこと、主神と、主神とご一体であられる明主様に心より感謝申し上げたいと存じます。

教主様には、実にご就位以来初めて「新年祭・立教記念祭」にご出座賜りましたこと、さらには、教主様が祭主を務めてくださり新年のご参拝に臨ませていただきましたこと、皆さまと共に心から御礼申し上げたいと思います。

同時に、私ども世界中の信徒を、真の明主様の救いへと命がけで、全身全霊を込めて導いてくださる教主様が、①之光教団史上初めて「新年祭」にご出座くださいましたことを、私どもも全身全霊で受け止めさせていただき、今年のご神業奉仕に臨ませていただきたいと思います。

私は、教主様が、昨年「御生誕祭」に続いて元旦早々にご出座くださいましたことにつきまして、本年が極めて大切な一年であり、真の明主様の救いに結ばれる千載一遇の機会であることを、神様が私どもにお示しくださっているものと、心からの感謝と緊張感をもって受け止めさせていただきました。

ですから、「御生誕祭」におけるお言葉と「新年ご挨拶」に込められたお心を、真摯にお受けさせていただくことが大切であると存じております。

教主様は、「新年ご挨拶」において、「夜昼転換」が、本教立教や世界救世(メシヤ)教開教をはじめ、すべてのご神業の大前提であり、数々のみ教えやご事蹟の核心である旨ご教導くださり、そして、次のように仰せになりました。

私ども全人類は、<sup>まこと</sup>真の命の親である主神を知らず、その無知のゆえに、神の願いよりも人間の願いを優先し、人間のために神を利用し、無明暗黒と言われる夜の世界の中に自らを閉じ込めておりました。

そうした私どもの罪を、主神は、その限りない愛によって赦し、今日までの心の営みにピリオドを打ち、私どもを夜の世界から解放してくださいました。

そして、私どもを大光明燦然と輝く昼の世界に迎え入れ、私どもが自らの罪に気づき、悔い改めて、主神の赦しをお受けすることができるようにしてくださいました。

このように、夜昼転換は、主神にとって最も大切なみ業であるからこそ、私ども一人ひとりにとって、想像することさえできなかった赦しであり、恵みであり、救いであります。

私は、この啓示は、明主様が全人類を代表してお受けになった啓示であると思っております。

ですから、私どもも、明主様と共に、この大切な啓示をお受けしておりました、と認めさせていただく必要があるのではないのでしょうか。

このように、教主様は、明主様の「全く新しい信仰」における「夜昼転換」の受け止めについて、極めて大切なこととしてご明示くださいました。

私は、明主様が、全人類と父母先祖、そして、万物と共に「夜昼転換」の啓示をお受けになったことを信じます。

そして、明主様が、「諸人の心の岩戸開くれば此世の闇は消ゆるなるらむ」というお歌を私どもに授けてくださいましたように、私は、神様が、私自身の中に「夜昼転換」した全く新しい昼の世界を成し遂げてくださっていることに、大きく自らの心を開かせていただきます。

また、教主様は、先般の「御生誕祭」において、

このメシアとして新しく生まれるというみ業について、私どもは今まで、明主様お一人だけしか成し遂げることのできないみ業であると、何の疑いもなく信じ込んでまいりました。

果たしてそうなのでしょうか。断じてそうではありません。

明主様は、私どもの先駆けとして、このみ業にお仕えになった、と私は思います。

私どもの誰もが、人間の子供として生まれただけでなく、神様の子供として新しく生まれさせていただくことができるのです。そのように、あらかじめ天国で定められているのです。

教主様は、このように仰せになり、そして続けて、

ですから、私どもが世に生まれさせていただいたということは、私どもは誰であろうと、メシアの御名を持たせていただいているのです。

メシアの御名にあって、天国において成し遂げられたすべてのみ業を携えて、世に生まれさせていただいているのです。

神様の赦しと救い、そして、新しく生まれるという、甦りのみ業は、私どもの中にあるのです。

教主様は、このように、「メシアの御名」の真実についてお示しく下さいました。

私は、主神の未来を創造する救いの御業をお受けし、明主様が指し示された真の救いの道である、「全く新しい信仰」の道を歩ませていただくためには、教主様のご教導を通して、「夜昼転換」の真実と「メシアの御名」の真実を、本当に深く受け止めさせていただくことが極めて大切なのではないかと思わせていただきました。

私は、「夜昼転換」と同時に、明主様が私どもに“心せよかし”と仰せになった「メシアの御名」につきましても、明主様が、全人類と父母先祖、そして、万物と共にお受けになったことを信じます。

そして、神様が、私自身の中に、初めから真に尊い「メシアの御名」を授けてくださっていたことに目覚めさせていただいて、その喜びと申し訳なさと恐れ多さの一端にでも触れさせていただけるものでありたいと強く願わせていただきます。

今年、私は、何事においても、教団に関わることにしても、自らの日常

生活の些細な事柄においても、“これから待ち望む”という姿勢をもう一度大きく改めます。

神様が、深い愛と赦しをもって、私ども一人ひとりのうちに、新しい昼の世界を成し遂げてくださっていること、私の中で夜の世界にピリオドを打ち、どんな心も赦して受け取ってくださり、新しい信仰に目覚めることの出来る新しい心を置いてくださっていることを、心を大きく開いて“先ずお受け致します”とご奉告させていただきます。

そして、その上で、人間中心、人間本位の生き方をしてきた自らの姿に気づき、感謝と悔い改めの心をもって赦しをお受けしたことを、神様にご奉告出来るものでありたいと思います。

さらに、私の心に浮かぶ思いについて、神様が、夜の時代における無数の祖先や人類の思いを私の心に集められ、受け取ってくださろうとしている真の救いの御業に大きく関係していることとして、すべてを委ねお仕えさせていただくことをもう一度心に決めたいと思います。

私は、このように自らの心の立ち位置を定める決心を、意義ある「立春」の日にお誓い申し上げたいと存じます。

そして、「光のお言葉」を通して、神様が天国へ呼びかけてくださる真に尊い親心をしっかりとお受けしたいと思います。

同時に、「祈りの言葉」を中心として、神様の親心に対してお応えさせていただく“想念の御用”を大切にしていって進んでまいりたいと思います。

また、今年私どもは、明主様が教主様を通してお示しくくださる、「夜昼転換」と「メシアの御名」の真実という、本当の「天国の福音」をお伝えする「全く新しい布教」に、いづのめ教区の皆さまのお姿に大いに倣い臨ませていただきたいと思います。

昨年、私どもは、すべてを失ってでも、教主様と一つ心で明主様の「全く新しい信仰」の道を歩む決断をされた、いづのめ教区の方々の尊い信仰のお姿に触れさせていただきました。

今年、㊦之光教団におきましても、人類は皆等しく「メシアの御名」を授けられ、神様の子どもとして「新しく生まれる」ためにこの世に生まれてきたことを、世界中にお伝えしていくための新しい「配布用リーフレット」をいただき、“想念の御用”としての「会う、聞く、浄霊」に努めさせていただきたいと思います。

そして、私は、こうした中で、教主様御自らが「おひかり」をご親授くださる、全く新しい入信式である「おひかり拝受式」に参画させていただきま

すことを、この上ない喜びとさせていただいております。

また、先般、全国の信徒の皆さまに、「全く新しい信仰の道を一途に歩む」と題して、「御光献金」へのご参画のお願いをさせていただきました。

私は、いつのめ教区の皆さまと同様に、明主様と共にあるメシアの御名に結ばれ、神様の御光をお受けしている私どもも、「メシアの御名」にある主神の御光を普く世界に宣べ伝える「全く新しい世界布教」を推進するための「御光献金」のご神業奉仕に、是非参画させていただきたいと心から思わせていただきました。

信徒の皆さまにおかれましては、今後ますます進展してく明主様の全く新しいご神業を、「御光献金」によって支えていただきたく、心よりお願い申し上げます。

教主様は、人類は皆等しく、始まりの天国において主神のみもとから出発したものであり、真に尊い「メシアの御名」に結ばれたものであることを、繰り返しご教導くださっています。

今こそ、私どもは、自らのうちに輝く主神の御光を思い出し、すべてのものと共に天国に立ち返らせていただく時を迎えていることを、世界中の人々にお伝えする明主様の真の救いの御業に、嬉々としてお仕えさせていただきます。

最後になりますが、皆さまに、主神の未来を創造する全く新しい救いのご神業の進展をうかがわせる嬉しいお知らせがございます。

今年4月、教主様には、いつのめUSAからの要請を受けられ、アメリカにご巡教くださることとなりました。

特に、4月21日には、フロリダ州・マイアミにおいて、教主様にご臨席いただき「アメリカ世界信徒大会」が開催されます。

明主様は、昭和28年(1953年)に、『アメリカを救う』という御論文をご発表になりました。

私は、教主様によって明主様の真の救いの扉が大きく開かれた今、「アメリカご巡教」が実現することとなり、「世界信徒大会」が開催されますことは、たいへん大きな慶事であり、極めて意義深きことと拝察申し上げます。

そして、この「世界信徒大会」には、アメリカ国内のみならず、ヨーロッパ、中南米をはじめ、世界各地から信徒の参加が予定されており、日本からもいつのめ教区との連携・協働のもと参拝団を募らせていただくこととなりました。

参加を希望される皆さまは、最寄りの布教所にお問い合わせいただき、一人でも多くの皆さまと共に、教主様と一つ心で「世界信徒大会」に臨ませていただきたくご案内申し上げます。

「立春」を迎えた今月も、皆さまの日々のご神業奉仕の上に、大いなるみ恵みと安らぎを賜りますよう心よりお祈り申し上げます。

今月もご一緒に、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ありがとうございました。